

くしまっ子

書道部門で 高文祭の全国大会へ

勢いのある筆使いで書道作品の制作に励む日南高校3年生の久保田香里さん。

昨年9月に行われた「第40回宮崎県高等学校総合文化祭」の書道部門で全国大会選抜賞を受賞し、今年7月に佐賀県で行われる「第43回全国高等学校総合文化祭」に作品を出展します。

書道を習っていたことがきっかけで、友達に誘われ、中学2年生から書道を始め、高校では週に6日の部活動を通して、日々表現力を



一面一面に気持ちを込めて書き上げます

日々是鍛錬!

元解長さん!



26. 久保田 香里さん

日南高校3年生。大東地区出身。中学2年生から書道を始め、昨年の宮崎県高文祭で全国大会選抜賞受賞や今年の宮崎県美術展の書道部門で準特選の受賞を果たした。

磨き上げています。

作品を作る流れとしては、漢詩の中から書きたい作品を選び、それから「書」を書く際には、わざとにじませたり、くすしたりなどして自分なりに表現し完成させます。

「作品は半紙でなく、大きい紙に書きます。多くの字を書くので時間がかかり、体力と集中力を使うので大変です。それを乗り越えて、自分が作り上げた作品が完成したときに達成感を感じます。そこが魅力ですね」と久保田さん。

全国大会の前に、5月30日に宮崎県高等学校席上(せきじょう)揮毫(きごう)大会が行われます。その場でお題が出され、書く大会。「3年生の最後の大会となるので団体優勝を目指したい」と久保田さん。部員1年生4人、2年生2人、3年生3人の計9人全員で、大会に臨みます。(取材日5月17日)



明るい長寿社会づくりを

串間市高齢者クラブが取り組む活動

令和元年5月1日時点の串間市の現住推計人口が、1万7480人、高齢化率42.67%と超高齢社会のなか、明るく豊かで活力のある超高齢社会の実現に向けて取り組む「高齢者クラブ」という団体があることをご存じでしょうか。

全国3大運動の「健康・友愛・奉仕」の3つの柱のもと、高齢者の生きがいや健康づくり、介護予防、友愛訪問などの活動を行うとともに、環境美化、世代間交流、ボランティア活動など地域を豊かにする活動を行っています。

串間市高齢者クラブ連合会会長の森光昭さんのもと、クラブ数22団体、会員約700人で活動する中、「さまざまな課題がある」と話す森さん。ひとつは、クラブ数の減少。30年以上前は約70団体あったが、現在22団体と大幅に減少。



《高齢者クラブの関係法令》

○老人福祉法第4条第1項
国および地方公共団体は、老人の福祉を増進する責務を有する。

○老人福祉法第13条第2項
地方公共団体は、老人の福祉を増進することを目的とする事業の振興を図るとともに、老人クラブその他当該事業を行う者に対して、適当な援助をするように努めなければならない。

もうひとつは、「加入率の低さ」。串間市内の65歳以上の高齢人口は7396人(3月31日時点)で、加入率約9.4%と大変低い水準となつています。さらに、各クラブでの役員の高齢化や役員のなり手がいないなど、大変厳しい状況です。

「今後は、行政・自治会・民生委員児童委員等の関係団体と連携し、会員加入促進やクラブの活性化、若手会員の活躍の場の拡大と、会員自ら介護予防や健康維持増進に努め、地域社会を支える担い手として活動に取り組んでいこうと考えています」と森さん。

活動のやりがいについて聞くと、「世代間の交流で、子どもたちの笑顔を見ると嬉しい。また、子どもたちと話すことで元気をもらいます」

「世代間の交流を積極的にに行い、若い世代の育成や女性の役員を増やしていきたい」と意気込む森さん。「のぼそう!健康寿命、担おう!地域づくりを」をテーマに、これからも活動は続きます。

—— 会員募集! ——

おおむね60歳以上の皆さまの高齢者クラブへの参加をお待ちしています。興味のある方は、串間市社会福祉協議会にお気軽にご連絡ください。

地域おこし協力隊

活動日記

vol.26 話し合いを可視化し、想いをつなげる
グラフィック・ハーベスティング

きよま 美咲さん



私は普段、地域の話し合いや意見交換の場、地域づくりに関する研修会などに参加する際、話されている内容を文字だけではなく絵や色を使って描き残すグラフィック・ハーベスティングという手法を実践しています。何か新しいことを始める、地域の課題を解決するために話し合いは必要ですが、その話し

合いで、「声の大きい人の意見だけが残る」「立場や年齢を考えると自由に発言できない」といったことが繰り返されてしまつてはもったいないとも感じています。

そこで、私が実践しているのがグラフィック・ハーベスティングです。グラフィック・ハーベスティングは、話し合いの内容を文字だけではなく絵も含めて記録し、話し合いから生まれた成果を振り返りながら共有することで、次への行動につなげることを目的として全国各地で活用されている手法です。話し合いの内容を可視化することで、「話し合いの全体像や流れを明確にすることができ

る」「言葉だけでは記録できない感情や雰囲気も記録できる」「話しやすい雰囲気づくりにつながる」といった効果があります。

一人ひとりに違った背景や想いがあるからこそ、お互いに理解し、納得しながら話し合いを進めることは簡単ではありません。そんな時に、言葉だけではなく「可視化」ということができれば、地域での話し合いがもっとより良くなるかもしれない。そんな可能性を持ってグラフィック・ハーベスティングを実践しています。

串間で多くの人とこの手法を学び実践したいと思っています。「やってみよう」と思つた方は、ぜひ、お声掛けください。



森 光昭さん (大東地区・揚原)

市議会議員、副市長を務め、串間市高齢者クラブ連合会現会長。趣味は盆栽。



子どもたちとの交流の様子



グラウンドゴルフの様子